

## 福岡市食育推進会議議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成22年2月12日（金）14：00～15：30
- 2 開催場所 福岡国際ホール 大ホールB（西日本新聞会館16階）
- 3 会議次第

1 開 会
2 議題 議題1 平成21年度食育の実施状況について 議題2 今後の計画推進について
3 閉 会

- 4 出席委員 福岡市食育推進会議委員  
出席委員：20名  
欠席委員：9名  
関係者：3名
- 5 報道機関取材者及び傍聴者  
報道機関：無 傍聴者：無
- 6 議事概要  
議題 1 食育関連事業の実施状況について  
（報告）
  - 平成21年度 食育関連事業の実施状況
  - 平成21年度食育推進関係主要事業一覧
  - 主な施策の実施状況  
2 今後の計画の推進について

	<p>(局長挨拶) (各委員紹介) (職務代理者指名)</p>
事務局	<p>議題1「食育関連事業の実施状況について(報告)」について、資料1、資料2、資料3、資料4で説明と事業報告。</p>
委員	<p>今の報告の中に「早寝早起き朝ごはん」という取り組みがありましたが、しおりを見ると、この取り組みは市のPTA協議会が実施されているようです。福岡市も積極的に実施しているのですが、年2回小学校・中学校の生徒全員に実施しています。その様な取り組みは他の会でも実施しているようですが、連携はどの様にしているのかをお伺いしたいです。</p>
事務局	<p>全体の実施状況につきましては、参考資料に全体の総括的な事は載せております。</p> <p>皆さんお手元の参考資料の「ライフステージに応じた食育の取り組み」2ページの2段目、13の番号の所をご覧ください。そこに「早寝早起き朝ごはん運動の推進」ということで、年2回、1回1週間実施しております。これは全国で実施しております、PTAが実施ということで報告しておりました。</p>
委員	<p>これだけで言うと、全国の中の900人というのは少ないと思います。全学校の全児童に実施をし、福岡市の全児童全員が答えたのかというと、そうではないです。学校によっては、きちんと答えている学校もあれば、少ししか答えてない所もあります。</p> <p>1週間毎日、今日は朝ごはん食べた、何時に起きたというのを、きちんと記録したものを学校で集約して、福岡市のPTA協会へ報告して、福岡市全体として、区としての集計をし、「目標を持って頑張ろうね」と言う取り組みが必要だと思います。</p> <p>これを年2回、1回目は9月、2回目が1月に実施する。福岡市だけでなく福岡県も一緒になってです。全国で実施しているんです。今回の資料を見ると、何も行動していないと誤解を受けそうです。</p> <p>特に残滓に関しては、中学校の残滓率が多いです。すると、「何故そんなに多いのだろうか?」と思われま。結果は残滓率が高いと出てますが、残滓を減らす取り組みは、中学校はやっています。その様な事も皆さんに知っておいて頂きたいです。</p>
事務局	<p>今の件ですが、どこで実施しているという事は教育委員会ではもちろん把握出来ておまして、資料の作り方が分かりにくくて申し訳ありませんでした。</p>

委員	<p>いろいろな場所でも実施されているという事を、情報共有の場でもありますので、どんどん出して頂き、学校や教育委員会、行政だけでなく、いろいろな場所で、様々な取り組みを実施しておられる事の報告や、意見を出していただきたいと思います。</p> <p>説明資料の13ページ、4番の家庭の教育力向上への支援ということで、「家庭教育の重要性やあり方についてパンフレットをもとに説明」とあります。</p> <p>入学説明会でと有りますが、特に食育に関してのパンフレットは、家庭の教育を目指す教本で、福岡市の教育委員会が中心になって作られて、様々な場所で使われています。</p> <p>あの内容は大変分かりやすく、特に食の大切さについては、大変分かりやすいです。このパンフレットについては、絶対に捨ててはいけない、今からずっと使っていくから、これだけは絶対なくしたらいけないんですよ、というような配布の仕方をしています。</p> <p>ところが、新しく子ども達が入学してくると、だんだん手に入らなかつたり、いつの間になくしたりしている等ありますので、私の個人的な考えかもしれませんが、あのパンフレットをもっと活用した方がいいのではと思っています。せっかくあのパンフレットで、食育に関する啓発活動が出来るのですから、今後も活用していくようにしていきたいなと思っています。</p>
委員	<p>食生活改善推進員の取り組みの中で、幼児から高齢者までの食育ということで、幅広く活動しています。</p> <p>その中で、幼児の食育ということで、先ほどから出ておりました、「早寝早起き朝ごはん」を啓発しております。その他に7区保健所で、だいたい月に2回程ですが、3歳児健診というのがあります。若いお母様方が健診にお子様を連れて来られます。その時に、各区のヘルスメイトが保健所まで出向いて行っております。その時に、表には朝ごはんの大切さを書き、裏面に簡単朝ごはんメニューとして、4つの献立をのせたチラシを福岡市で作成し、若いお母様方の健診の待ち時間に、1人ずつに「朝食はどうしていますか？ちゃんと食べていますか？」っていう具合に、お声かけをしながら、年にしまして7区で、回数にしたら200回くらい、人数にしたら9,000人から10,000人くらいに声かけ運動をし、朝ごはんの大切さをPRしております。この事業が、今年で確か4年目になると思います。食生活改善推進員の継続事業として実施しております。ごはんを食べる必要性の効果が、出てきているのではないかと考えております。福岡市食生活推進員の紹介資料の中でも、この活動について謳っておりますし、継続していきたいと考えております。以上です。</p>

委員	<p>今、3歳児健診で、お母様方にお話をしているらっしゃる、というのをお聞きしましたが、その前に1歳半健診、4ヶ月健診もあります。その時にはこういう形ではされないのですか？</p>
委員	<p>1歳児健診など色々健診がありますけれども、福岡市食生活改善推進員としては、3歳児健診の時に実施しています。というのも、3歳児くらいになると、お子様自身も私達が「朝ごはんちゃんと食べてきたあ？」と声をかけると、お母様が黙っている時も子どもが「今日はバナナだけ食べてきたあ」とか答えて下さるんです。3歳児ですから、嘘はつけないんです。本当の事しか言えませんから、「今日は牛乳だけ飲んでここに来た。」とか、そういう反応が、私達にも伺うことが出来るんです。そういうわけで、今のところ3歳児健診で実施しております。</p>
委員	<p>わかりました。ただ、1歳半、また早いかもしれませんが、4ヶ月健診でお母様方に食のリズムや、いかに食事が大切かということ、早い時期に教えられたらいいなと思いました。出来れば早い時期からやって頂ければという気持ちがあります。</p>
委員	<p>すみません、補足させていただきます。今発表させていただいたのは、西区での報告でした。7区のうち2区では、3歳児健診だけではなく、1歳半健診でもチラシ配りしております。</p> <p>一つ加えさせていただきますと、この食育というのは小学生になってからでは遅いのではないかと、食というのは、やはり保育園、幼稚園、家庭が一番大事ですから、出来れば小さい時からの食育を、とある先生が言われていました。私達もその点を考えた上で、これからもボランティア活動していきたいと思っております。</p>
委員	<p>パワーポイントの資料の14ページの件で、学校の方のご意見をお聞きしたいのですが、学校給食の残滓を減らす取り組みのところで、小学生と中学生の間に随分と差があります。小学生全体で見ると、4.3%から少しずつ減って目標2.1%に近くなり、大変好ましいと思っておりますが、中学生の14.6%というのは、どの様なことが起因しているのでしょうか。たとえば穿った見方をしますと、少し子ども達の実態に合わない食事、余分な食事を出しているのでは、ということも考えられますし、あるいは中学生になると夜遅くまで勉強して、朝食を食べないで学校に来ると、昼食は食べるんじゃないかと思えます。そう考えると、14.6%というのは、とても多い数字だと思います。それが平成20年になると少し下がって来ているというは、何か取り組みをやっていらっしゃるのでしょうか。方法がありましたら教えて頂きたいです。</p>

事務局	<p>残滓についてのご質問ですが、小学校と中学校の残滓率が違います、中学校については推定値を出しております。小学校のように、きちんと数字を出していない事が一つの原因と思われます。</p> <p>メニューにつきましては、確かにおっしゃるとおり、子どもが普段食べないような、いわゆる日本食、ヒジキとか大豆、煮物、和え物、酢のものなど、なかなか好まれないというのがあります。ですが、やはり日本食の大事なところを知って欲しいということで、続けて出している状況です。</p> <p>メニューに関しては、やはり栄養とのバランスがあつて、栄養素をどうしても摂りにくい鉄分とかについても、食べて頂く必要があるので、日本食を福岡市の給食で出すようにしています。ですが、家庭で食べないものは、なかなか食が進まないという傾向にありまして、そういう点で残っているのではないかと思います。それから、もう一つ残る原因として、喫食時間が少ないというアンケート結果が出ております。これにつきまして、平成21年4月から、給食時間を5分延長した学校が30校程度ございます。</p> <p>さらに喫食時間の延長につきましては、今後も指導、ご検討をお願いしたいと考えております。</p>
委員	<p>私も学校等にお邪魔したりすることもあるんですが、基本的には生徒がどういう風な環境で食べているのか、向かい合つて食べるとかいう事を教えて頂けたらと・・・</p>
事務局	<p>小学校につきましては、5人か6人の生徒を集めましてグループで食べているようです。</p>
委員	<p>食事は、やはりコミュニティの場でもあるわけですから、幼稚園でも栄養のあるものを口から入れていく中で、子ども達が一人では家で食べないようなものを共に食べるようにしています。博多弁に昔から「ごしぐい」という言葉がありまして、一緒やったら食べようという意味なんです、向かいあつて食べたクラスの子と、コミュニケーションが無く食べた子どもの残滓の量が違つていたという事があります。</p> <p>条件が違うならと、クラスをひっくり返して同じ事をやっても、やはり目の前に向かい合つて食べる方が、だいぶ違うという結果が出ているそうです。ただその時の問題点として、いつまでも話して、食べる時間が長くなるというのが出ています。</p> <p>園も、幼稚園によっては、学校のようにグループで食べたりしていると思うんですが、果たして、環境としてはどういう環境が食べやすいのかと思つています。お花を置いてあげるというのでも違いが出ますので、そういう事も考えています。</p>

委員	<p>今食べ残しの件がありましたけれども、確かに日本人はたくさん食べ残します。1,900万トンから2,000万トン食べ残します。日本のお米が800万トン作られています、800万トンに対して1,800万トンですから、すごい量が廃棄されているという事です。</p> <p>栄養期限を作りながら、実はすぐ食べてないとなりますと、意味のないこととなりますので、出来るだけ食べ残しを少なくする運動に取り組もうかと思った次第です。</p>
委員	<p>先ほど説明をいただきました5ページ、栄養成分表示の店の表示の調査結果のデータが出ていますが、この調査のやり方はどのような方法でされているのでしょうか？あまり数値に変化がないようですが、来年度の予定として目標が立ててあります。これはどのような方法で、この目標達成に向かって行かれる予定なのか、そのことも含めてお伺いしたいと思います。</p>
事務局	<p>栄養成分表示の店は、登録して頂くような制度になっております。こちらからももちろん、登録されませんか？という働きかけを、ホームページでご案内等しています。委員のご指摘のように、私達に情報が伝わらず、実際は実施されている施設も、件数にはあがってきていないことも実はあると考えております。</p>
委員	<p>そうですか。やはり、一度実態調査も必要だと思います。</p> <p>丁度、今日来る時に、買い物袋を持っておられる高齢の方を見かけましたが、カップ麺を山のように買ってある男性の方でした。1日1食食べられるのかもしれませんが、多分その方は普段から外食も多いんだろうと思うんです。そういう方達のためにも成分表示というのは重要なんじゃないかと思いました。</p>
委員	<p>残滓の件でお聞きしたいのですが、中学生の残滓が減ってきている件で、具体的にどういう取り組みをされたか教えて頂きたいです。</p> <p>それから、今の食育サポート店ですが、具体的に料理組合や協議会なども回られたのかどうか、どのような声かけをされているのか、もう少し具体的に教えて頂けませんか。</p>
事務局	<p>まず、残滓を減らすための取り組みですが、福岡市の児童生徒は全国的にもやや細めという結果が出まして、平成21年4月から、小・中学生の栄養の基準値を福岡市独自で行いました。結果に基づいて色々算定し、福岡市独自に栄養を算定しました。その際に残滓についての傾向等を調べながら、今年度当初、1学期のみ小学1・3・5年生と中学1年生につきまして、副食の量を変えました。1・2年生、3・4年生、5・6年生の量を同じにし、2年生から3年生にあがる時に量が増え、4年生が5年生に</p>

事務局	<p>あがる時に量が増えました。そのことから、1年生の1学期、3年生の1学期、5年生の1学期のみ、パンの量を小麦粉量で換算すると10グラム、二口程度増やしまして、おかずの量は規定量で行った結果、パンの量以上に残滓が減りました。それらの栄養士の取り組み、学校全体の取り組みが広がっている成果だと考えております。</p> <p>また、先ほど申しましたとおり、今年4月から中学校で30分の喫食時間を35分に延長して下さった中学校が30校あります。この成果もあるのではと思います。それから、主食の献立の組み合わせを、出来るだけ多く食べられるように工夫も行ってます。</p> <p>福岡市食育サポート店というのは、平成21年10月に、食育をバックアップ出来るお店を増やしていこう、という趣旨で出来たものです。これにつきましては、各保健所に要綱があり、チラシと併せて、窓口で勧奨を行っております。この他、広めていくために、お店にPRしていかなければならないということもあり、百貨店の方が非常に食育に関して関心を持っておられるので、百貨店の他に、区の商店街に声をかけております。それから、衛生関係としまして、衛生協会にも話をさせていただいております。</p> <p>これにつきましては、今後、いかに力を入れて取り組んでいくかにかかっていると思っておりますので、ご協力よろしく申し上げます。</p>
事務局	2「今後の計画の推進について」の説明
委員	<p>先ほどから、何度か学校給食の残滓が言われていますが、資料の2ページに参考の表があります。ここでは、小・中学校の副食の残滓について書いてあります。この数字は先ほど説明がありました、資料2の方にも小学校と中学校の残滓の割合、下の方にありますが、この数字と同じ数字です。ということは、この残滓というのは副食のみで、パンやご飯の残滓は入っていないととらえて良いのでしょうか？</p>
事務局	はい、そうです。
委員	<p>そうしますと、パンの食べ残しの事が、先ほど出ていましたが、これについて、改善があった事はこの数字では出てきてないですね？</p>
事務局	<p>今の件ですが、最初の初期値を決める時に、その当時主食の持ち帰りもあり、おかずがたくさん残っていることが大きな課題で、あまり問題になっておりませんでした。目標値を決める時に、副食の数字で出した経緯がありまして、その数値であげております。</p> <p>ただ、パンにつきましても、昨年度持ち帰り禁止になりまして、残滓が</p>

	<p>多いことが分かりましたので、それからは、先ほど課長が申しましたように、今年度は、1・3・5年の量を減らす事も実施し、各学校での取り組みについても、色々ご指導頂きまして、昨年度の1学期と今年度の1学期を比較しますと、小学校も中学校もパンの量は半減以下になっております。</p> <p>この資料につきましては、副菜を最初に出していただきましたので、その数字を出させて頂いております。</p>
委員	<p>また計画を作りますので、次回の作成の時には主食も入れていきましょう。</p>
委員	<p>保育所における食育の推進として、いろいろな取り組みが書かれておりますが、資料を読んでいますと、噛むについての取り組みがあまりないように思います。</p> <p>噛む事はすごく大切だと、新聞にも載っております。その辺りの取り組みもこの中にあげて頂きたいと思っておりますが、いかがでしょうか？</p>
委員	<p>30年くらい前の話になりますが、母親が出産をしても母乳を与えないという時期がありました。自分の体の線が壊れるから母乳は与えないという風潮です。母乳でなく哺乳瓶でミルクを与えるのですが、当時の哺乳瓶はひっくり返すと自然とぼとぼと落ちてくるんです。母乳を吸う時は、全身運動で舌やほっぺた全部を使って吸わないと出てこないようになっています。その頃から、噛むことの勉強が始まるっているんです。</p> <p>マタニティスクールというのが参考資料の中にありますが、この第1回から母乳を与える教育、哺乳瓶ではなく乳首から、練習用の乳首がありますので、出来ればそれを使って、乳児の吸う力、食べる力をその頃から養う事が大事だと思います。</p> <p>20年程前ですが、保育園で、噛めない、噛まない子どもが増えていきました。お肉も食べて噛めないと、パッと吐き出す。もしくは、水やジュースで流し込むという具合です。当時は母子でミュージカルを見ながら、噛む教育をするというのがありましたが、そこで噛むことの大切さを話していました。出来れば、このマタニティスクールでも、こういう教育をして欲しいと思います。報告書で624人と書いてありますが、妊婦は福岡市に1万数千人いらっしゃいます。もう少し事業を広げて欲しいというのが私の意見です。</p>
委員	<p>今のに関連していますが、議題の2の最初の方にあります、高校生の朝食喫食率の低下や、働き世代の体型の対策といわれてましたが、特に体型についての対策をお聞きしたいです。</p> <p>体型という点で私が申し上げたかったのは、噛む力、食べないよりは食</p>



	<p>べる方がいい、食べるんだっいたらしっかり噛むべきだということです。噛む意味についての教育を、子どもの時からしっかりやっておくべきだと思います。幼稚園や低学年のうちからしっかり教えていかなければ、社会人になって生活習慣が乱れがちになります。しかし、子どもの頃に教育されていると、どこかで、元に戻さなければと気づくことが出来ます。潜在意識をきちんと植え付けていくことが大切だと思います。</p> <p>体型については、保健体育の分野でいいますと、子どもの発育について、危険信号が出ている事は、教育委員会の関係者もいらっしゃるのでおわかりのことと思います。</p> <p>昭和50年代、我々が子どもの頃のスポーツの結果よりも、今の子ども達は、全て平均よりも50メートル走、幅跳び等で劣っています。それは、噛む力が全て連動しているのではないかと、体育学の観点から訴えたいと思っています。要するに、今の若い世代はあごが細い、バブルの頃、醤油顔の男がもてるということで、顔が細い人が増えてきました。そういうところで言うと、私などは全くもてなかつたんですけれども、そのおかげでスポーツが強かったです。スポーツ選手は顎が大切です。そういう意味では、顎をきちんと鍛えて、噛む力をつけ、食べ物をよく吸収することが、体の発達のバランス全てに連動しています。その顎が頭の脳も支え、体の背骨や腰全てに関係してくると思いますので、そのような観点でも、しっかりと連動していかなければいけないと思います。</p> <p>そして、ただ食べるということだけではなく、何で噛むのか、噛むことによってどの様に脳が成長して、どの様に体の発育、成長に意味があるのかという事を、しっかり教えていくべきじゃないかと思っています。その件も是非考慮頂いて、次の策定に取り入れて頂きたいと思っています。</p>
事務局	<p>特に噛むこと、歯科の件で食育の関連ということで、文言的には若干入れさせて頂いておりますが、今貴重なご意見をいただきましたので、策定の時など学校教育の中に貴重なご意見として反映させていくように努力して参りたいと思っています。</p>
委員	<p>食生活改善推進員からお願い事があります。</p> <p>これは福岡市だけの問題では無く、食生活改善推進員、全国的に高齢化しております。ここ1・2年で、推進員の辞められる方が非常に多くなっています。今福岡市の7区会員が1,023名程です。養成教室を卒業して、この4月から各区の食生活改善推進員協議会に入会されますが、福岡市では平成22年までに1,200名を目標にしておりますが、なかなかこの増加につながっておりません。養成教室に入って、ほとんどの方が入会はして下さるんですが、休会、退会する方が、入会される方くらい増えています。</p> <p>そこで、福岡市自治協会にお願い致しまして、唯一自治協議会の中に、</p>

	<p>食生活改善推進員として、ある校区に入れさせて頂いております。4月にその校区が2つに分離しますが、先日も会に「校区で養成教室に参加、大勢参加するように呼びかけして下さい」と言うことをお願い致しました。このように、自治協議会の方や、公民館館長のお呼びかけ、もちろん行政からは市政だより等を使いまして呼びかけはして下さいますが、是非、平成22年度の養成教室にたくさん入って頂き、そして基本的な栄養勉強を終えられて、私達の楽しい仲間作りの中に入って頂きたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願い致します。</p>
委員	<p>私の88歳の母も推進員をしております。もうリタイアした方がいいんじゃないかと思っているのですが、妻にも勧めようと思えます。</p>
委員	<p>私ども地域で、食育というのを、3・4年前からPTAのお父さんお母さん達、子育て真っ最中の方を対象に、「あなた達が、自分達の趣味思考だけではなく、家庭を中心しなければいけませんよ」という食育の話をしました。その時分から『早寝早起き朝ごはん』というタイトルが出てきたと思います。</p> <p>「福岡県の子どもの体力は、全国でどの位置にありますか？」と問われた時に、ご返事出来る方はあまりおいではなからぬです。福岡県のレベルは最下位の方です。そして、福岡県の中でも福岡市がどの位置にあるかご存じですか。アスリートの方、オリンピックに出られるような方はそれなりの努力をされておりますが、平均値がとても低いです。『体力＝食育』だと思います。私も東京オリンピックの時代は、コーチした立場でしたので、いかに食べ物かを分かっていた。その当時は乳製品が要だったんです。今はチーズや牛乳等たくさんありますが、食品メーカーの協力があって日本人の体力をここまで引き上げてくれたと思います。また、そういう時代を鑑みると、噛む力、食べる力、全部脳の活性化になりますし、体力も増進出来ます。</p> <p>何故朝食がこの様に問題視されるかという、子どもの登校指導で朝立ちますが、挨拶の出来ない子、ひよろひよろ歩いている子は、全部朝ごはん食べていないなど、分かるんです。そういう子は給食食べた後元気になるそうです。</p> <p>私どもの地域では、餅米を籾から苗作りまではしていませんけれども、水田を子ども達と一緒に作り、田植え、草刈り、稲刈りをし、それで餅つきまでして、子ども達と一緒に体験するというのを親子でやっています。餅つきの時400名以上の方が参加されますが、親がほとんど作り方を知らないです。</p> <p>この様な活動をしていくのが食育の原点ではないでしょうか。地域で子どもが様々な事をしていきます。福岡県公民館連合会での実際の発表会でも、ある小学校と公民館が、3年生が初穀で苗を作り、4年生が田植えをし</p>

、5年生が稲刈りし、6年生が餅つきする、というような事例が発表ありました。

当然そうなると、3年生から、親子で学校卒業するまで体験することになります。このようなことも食育の原点じゃないでしょうか。

お金を出せば簡単に揃いますし、餅も家でつかずに機械でつくところも多いでしょう。昔は、朝4時や5時から餅つきの準備をして、60kg入りの米の、3俵くらいを地域でついていたところが多かったかと思います。今は完全に業者に頼んで、完全にパックされた餅が簡単に手に入ります。それだけ物が増えたということと同時に、やはり子ども達も含めて体力を養っていけない時代になっているのではないのでしょうか。

それと併せて、公民館や、自治協議会、地域でも取り組んでおります。食進会の方からもお話がありましたが、確かに私どもと同年齢の親が多く、若いお母さん達は少ないです。やはり50代、40代にバトンタッチする、バトンタッチのつなぎ、その辺が大事ではないでしょうか。嫁姑の話にも繋がるとは思いますが、自分の親から言われると腹が立つが、人の親から言われると素直に聞けるとは思います。社会の中で育っていかなければいけない部分があると感じております。

委員

今日話をしている内容は、考えるのは大人が考え、実際に食べるのは子どもという話を中心のように思います。多分皆さんも一緒だと思いますが、自分の中学時代を振り返ってみますと、親が良かれと思って言ってくれたことも聞かなかったです。それと一緒に思うんです。これを食べたらいいいよ、と作られても、頭の中で分かっている食べない。だから、中学生なら、中学生の市内の代表を連れて来て、子どももこのよな会議の場に参加させて、生の声をどんどんこういう場所で発言させたらいかがでしょうか。そして、お互い話し合っただけで可能にしようという会話の仕方、子ども達との接し方をすれば、本当に変わると思います。

先ほど給食時間の5分延長の話がありました。あれは子ども教育委員会の時に、教育委員さんの前で中学生代表が発言したのです。「給食の時間がもう少し長かったらいいです。そしたらゆっくり食べられます。」と。それをどうにかしようと一生懸命考えたんです。皆さんは、たった5分間じゃどうにもならないだろうと、何故その様なことで騒ぐのかと思われるかもしれません。しかし、学校で5分間給食を延長するという事は、昼休みも5分間ずらさないといけない、そうすると授業も帰りの会も部活動まで、全部影響してくるのです。その5分間を延ばすために様々なことを話し、促していきました。そのようにして5分間延長を実行したのです。

ですから、その他にも子ども教育委員会で、子どもが発言した意見、いい意見もあります。出来ればこの会議にも、小学生が出席出来るか分かりませんが、色々意見聞いていけばと思います。

委員	<p>和洋中全ての料理人の会ですが、様々な事をしたいと思い、毎月定例の会議で意見交換をしております。調理師は多々敬遠される面もあるんですけども、様々な行事でご協力をしたいと思っています。我々としては多様な地域の活性化なり、食のことであれ、そして子どもさんのことであれ、色んな事で料理人としてお手伝いをしたいなというような思いもあります。本日はこういう場で、様々な意見を聞かせてもらいました。</p> <p>子どもさんだけに集中して意見がありましたが、お父さんお母さんはどうなのかという思いもあります。これから先、我々専門の調理師として、どの様なお手伝いが出来るのかというのを持ち帰り、議論したいと思っていますし、是非皆さんからも、「こういう事は出来ない？」と言うご要望を聞かせて頂ければと思います。</p> <p>料理人も、ボランティア等色々していますが、各事業所で要員を減らされていますので、会社を休めないということもあり、イベントに参加することが出来ない事があります。実際に皆さんからご要望を戴いたり、企画に対しても、すぐにOKということにはならないかもしれませんが、様々な事にご協力をしたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>皆様、本当に闊達なご議論をいただき、ありがとうございました。</p> <p>平成22年度は第2次食育推進計画の策定もごございますので、引き続きよろしくお願い致します。</p> <p>それでは、これもちまして平成21年度福岡市食育推進会議を閉会させていただきます。本当にありがとうございました。</p>